



竹田城跡  
(撮影・吉田利栄さん)



朝来市は、京阪神から鉄道などを利用して1時間半から2時間、姫路からJR播但線などを利用して1時間程度で訪れることができる。JR和田山駅は東方面からは特急「こうのとり」、南方面からは特急「はまかぜ」が到着するなど、但馬・山陰地方と京阪神の大都市圏を結ぶ交通の要衝の地にある。市内には茶すり山古墳をはじめとする多く

# この地に、無二の輝き

in 兵庫県朝来市

ふるさとの光  
発見プロジェクト  
6紙連携企画



朝来市の「ふるさとの光」  
5つのテーマ

日本遺産「銀の馬車道・鉱石の道」  
～産業発展の足跡を巡り、先人の功績を想う～

竹田城跡  
～山上の史跡のふもとに広がり、悠久の文化が香る城下町を歩く～  
朝來の歴史が見える  
～人々の生活のそばで静かに息づく、朝來の歴史の奥深さを知る～

朝來の自然や構造物  
～豊かな自然に触れ、自然と調和した朝來のシンボルを訪ねる～

朝來のグルメを味わう  
～豊かな自然と人の手が創り出す、朝來の“食”の魅力～



虎臥城大橋



まさかつ  
當勝神社  
「奈良時代に創建された格式高い神社で、向拝（こうはい）回りの鳳凰（ほうおう）、竜、獅子の彫物は見事です」（藤井さん）

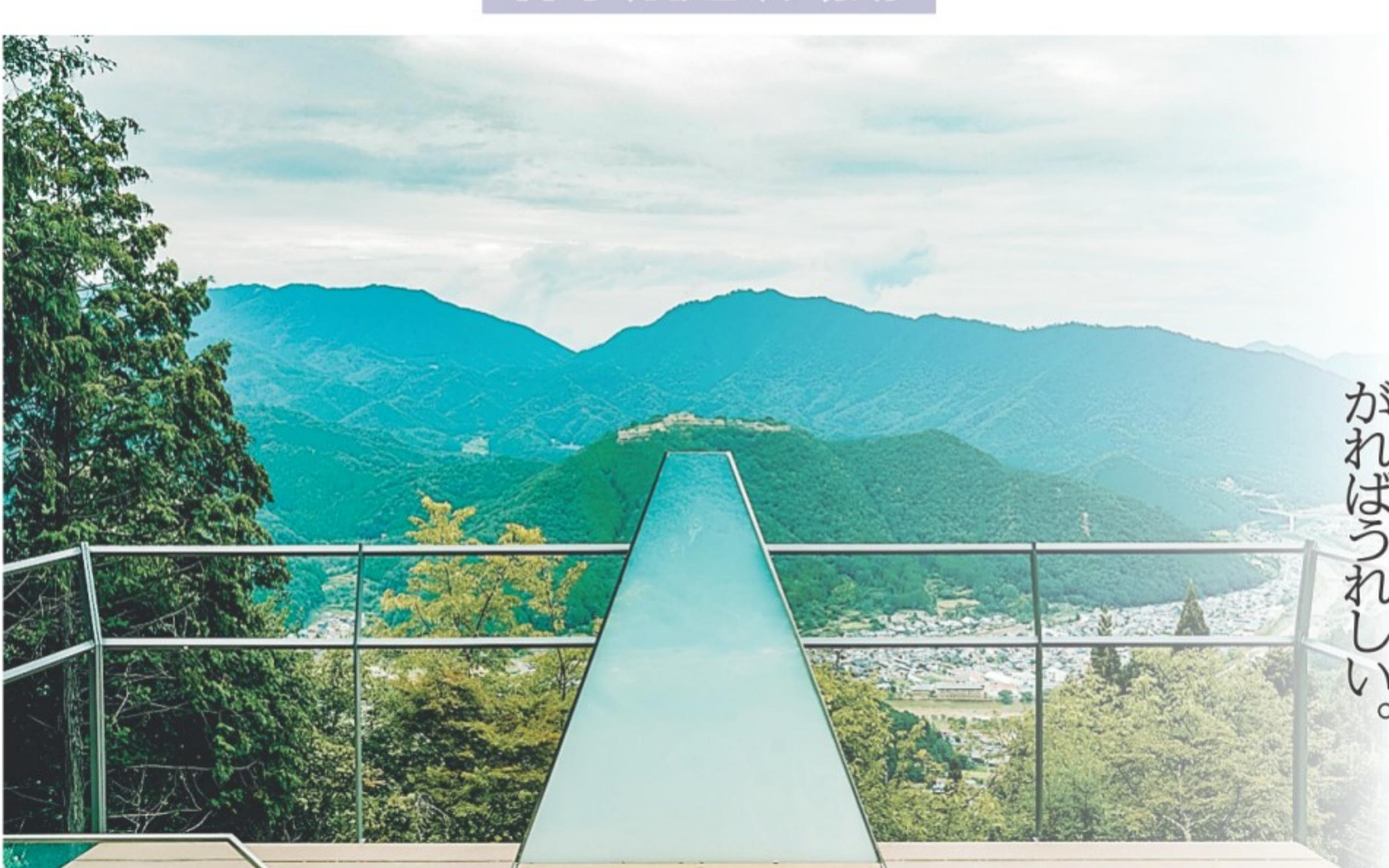
「光」を子や孫の世代に



トロツコ軌道跡

「見応えがあり感動的。馬車から鉄道に切り替わった歴史を垣間見ることができます」（安東さん）

とよだの  
みたらしだんご



立雲峠テラス  
光の道展望所



春の夜久野高原

◇2月8日の紙面で、朝来市の「ふるさとの光」を一挙紹介。そして3月上旬には、選定者の写真家藤原次郎さんが現地を巡り、各スポットの魅力を写真とともに紹介する。

西日本各地には、豊かな自然の中で育まれた歴史や食文化が息づいている。神戸新聞社をはじめ西日本の6地方新聞社は、地域の新たな魅力を発信する「ふるさとの光」発見プロジェクトを展開中だ。第1弾の岡山県新見市に続き、今回は兵庫県朝来市が舞台。同市とさまざまな関わりを持つ4人の協力で、お薦めスポットやグルメなど24件を「ふるさとの光」として選んだ。

## 歴史遺産、特産物など24件選定



特急こうのとり

の遺跡、国史跡の竹田城跡や史跡生野銀山など、中世から近世にかけての歴史遺産がある。また、由緒ある神社仏閣、伝統芸能などもあり、特産物では「岩津ねぎ」が知られている。今回の発見プロジェクトのメインテーマは「豊かな自然のなか、時代の榮枯盛衰を見つめ、朝來の地を生きる人々。この地で輝き続ける「光」を探し、五つの扉を開けて、その魅力に思いをはせる」。選定された「ふるさとの光」を分かりやすく、より魅力的に発信していく。

藤井 社業の傍ら、竹田城の経済効果を上げるなど地元貢献に取り組んでいる。地域の宝を掘り起こす視点を大切に、ハードより食や人などソフト中心のラインアップにした。例えばわずか50㍍しか離れていない二つの酒蔵なのに、水源が異なるため味も対照的といつた興味深いテーマを取り上げた。

安東 長らく観光や日本遺産登録に携わってきたのでも自信と責任を持って選んだ。生野銀山や銀の馬車道など、まちの発展につながってきた歴史を知つてもう一度外国人も安心して訪れるこのできる観光コンテンツであることもポイントだ。

小川（撮影・藤原次郎さん）  
城下町を流れる



藤原 美しい風景に発見がある  
藤井 ハードよりソフトに注目

藤原 但馬の風景を40年以上撮影しており、今回の活動はその集成だ。私が撮影しているのは身近な自然や人間の営みで、そういう場所で「祈りの場」。先人に畏れ供養の念を抱き、神秘的な光に感謝して撮影している。それらの光を子や孫の世代も発見してほしいと願って選んだ。

藤井 社業の傍ら、竹田城の経済効果を上げるなど地元貢献に取り組んでいる。地域の宝を掘り起こす視点を大切に、ハードより食や人などソフト中心のラインアップにした。例えばわずか50㍍しか離れていない二つの酒蔵なのに、水源が異なるため味も対照的といつた興味深いテーマを取り上げた。

安東 このプロジェクト開始後に、播但鉄道を創設した原六郎氏の本が出版されたりした。よければ、賞味を。藤井 私が選んだ施設やお店は笑顔で協力してくれ、選定の喜びを分かち合えた。『朝来グ

ルメ』が味わえる日本料理店では、以前からリクエスト続けてきた裏メニュー「但馬うしステーキ・キヌガサ」も紹介している。ふわふわ卵が絶品で癖になるおいしさ。よければ、賞味を。

安東 このプロジェクト開始後に、播但鉄道を創設した原六郎氏の本が出版されたりした。よければ、賞味を。

藤井 富士発條代表取締役社長執行役員 藤井 啓さん 映像作家 藤原 次郎さん

安東 訪日外国人も安心できる  
瀧口 日常の延長で感じる魅力

瀧口 地域の人々とのつながりを通じて改めて脚光が当たればと願っている。今回のように取り組みが、地方の未来につながればうれしい。

たきぐち・りりこ 福岡県宗像市出身。芸術文化観光専門職大学（豊岡市）進学を機に但馬に移住。大学の地域連携拠点「地域リサーチ＆イノベーションセンター」のスチューデント・アシスタント（SA）や実習活動を通して、朝来市観光コンテンツ開発事業に携わる。2003年生まれ。

あんどう・あけみ 神河町出身。朝来市に祖父母宅があり、小さい頃からよく通っている。兵庫県入庁後、主に観光に携わり、特に2015年からの2年間は中播磨県民センター銀の馬車道担当班長を務める。現在は、ひょうご観光本部でインバウンドと国内観光推進に取り組む。1969年生まれ。

ふじわら・じろう 朝来市出身。生野高校、大阪芸術大学映像計画学科卒業。大阪のビデオ制作プロダクションなどを経て2011年、映像作家として独立。「陰影」を巧みに使った作品で、数多くの受賞歴がある。妻の故郷でもある大分県に移住し、創作活動を続ける。1955年生まれ。